

2020年度第1四半期決算説明資料

2020年8月6日

川崎重工業株式会社



目次

I. 2020年度第1四半期連結決算の概要

- 2020年度第1四半期決算実績 サマリー 3
- 2020年度第1四半期決算実績 セグメント別 4
- 前年同期比損益増減要因分析 5
- 前年同期比損益計算書の概要 6
- セグメント別決算実績/コロナウィルスの影響
 - 航空宇宙システム 7
 - エネルギー・環境プラント 8
 - 精密機械・ロボット 9
 - 船舶海洋 10
 - 車両 11
 - モーターサイクル&エンジン 12
- 貸借対照表の概要 13
- キャッシュ・フローの概要 14

II. 2020年度業績見通し

- 連結受注高・売上高・利益見通し 15
- セグメント別通期業績見通し 16

<参考資料>

- ヒストリカル・データ 17
- 市場概況 18

第1四半期決算実績 サマリー

[単位：億円]

	2019年度 1Q	2020年度 1Q	増減
受注高	3,282	2,482	▲ 799
売上高	3,507	3,006	▲ 501
営業損益	10	▲ 206	▲ 217
経常損失	▲ 43	▲ 189	▲ 145
親会社株主に帰属する 四半期純損失	▲ 82	▲ 117	▲ 35

前年同期比

• 受注

- 航空宇宙システム、エネルギー・環境プラントを中心に減少

• 売上

- 車両等が増収となる一方で、航空宇宙システム、モーターサイクル&エンジン等が減収となったことにより、全体では減収

• 利益

- 営業利益および経常利益は、車両の改善はあったものの、航空宇宙システムでの悪化等により減益
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、固定資産売却益の特別利益への計上や税金費用の減少はあったものの、経常利益の減益により減益

<売上加重平均レート>

ドル (¥/\$)	110.32	106.29
ユーロ (¥/EUR)	124.35	118.75

(参考) 20年度1Q決算実績における影響外貨量

[単位：億外貨]

ドル	ユーロ
2.4	0.3

第1四半期決算実績 セグメント別

[単位：億円]

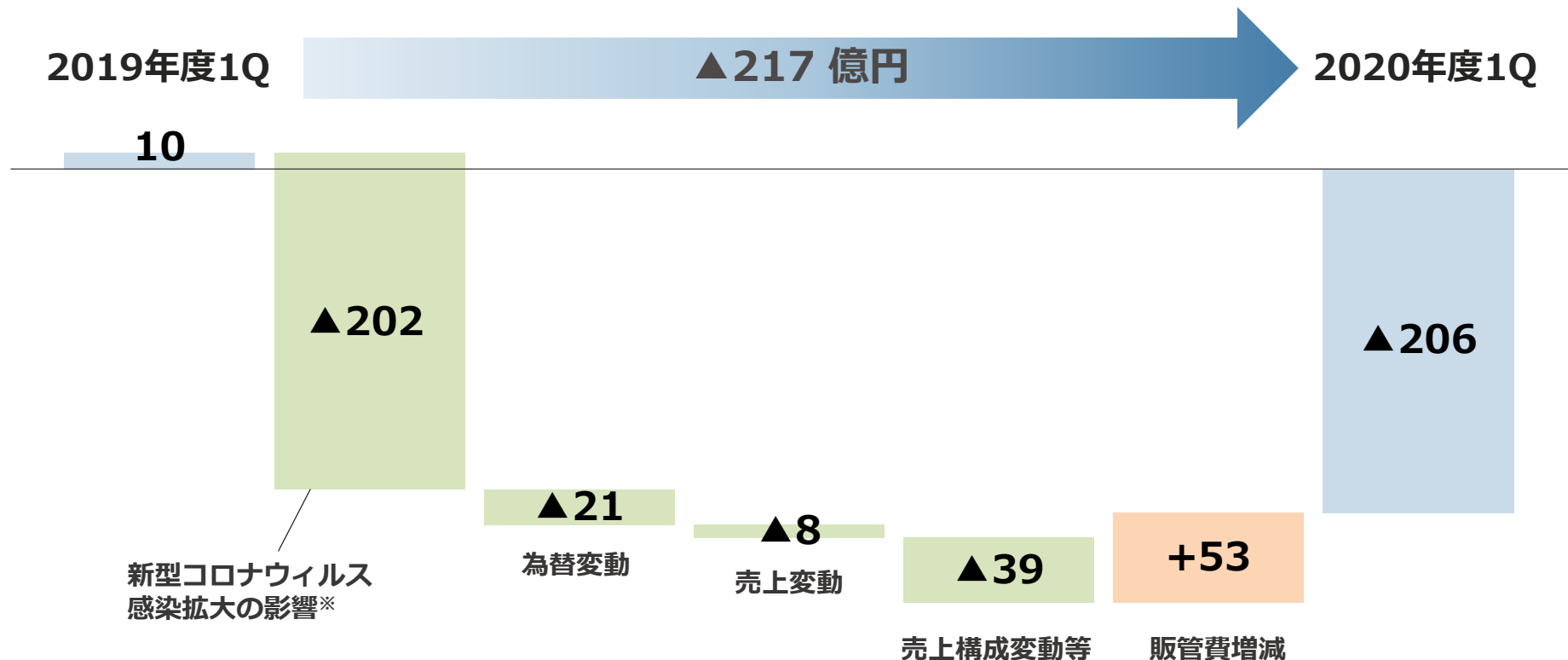
	受注高			売上高			営業損益		
	2019年度 1Q	2020年度 1Q	増減	2019年度 1Q	2020年度 1Q	増減	2019年度 1Q	2020年度 1Q	増減
航空宇宙システム	697	454	▲ 243	1,221	746	▲ 475	48	▲ 175	▲ 223
I補助機・環境プラント	698	462	▲ 236	450	500	+ 50	8	15	+ 7
精密機械・バルブ	529	507	▲ 21	483	454	▲ 29	17	13	▲ 4
船舶海洋	215	99	▲ 116	228	221	▲ 7	▲ 3	▲ 4	▲ 0
車両	160	187	+ 27	204	323	+ 119	▲ 35	▲ 14	+ 20
モーターサイクル&エンジン	683	589	▲ 93	683	589	▲ 93	▲ 28	▲ 59	▲ 30
その他	297	180	▲ 116	235	169	▲ 65	4	▲ 1	▲ 6
調整額※	-	-	-	-	-	-	▲ 0	19	+ 19
合計	3,282	2,482	▲ 799	3,507	3,006	▲ 501	10	▲ 206	▲ 217

※「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含みます

前年同期比損益増減要因分析

● 営業損益の変動

– 前年同期比 ▲ 217 億円 (2019年度1Q: 10億円 ⇒ 2020年度1Q: ▲206億円)



※ 当該数値は、2019年度1Q実績を平常値とした場合に、2020年度1Qにおいて新型コロナウイルス感染拡大に起因することが明確な損益変動を集計した概算値です

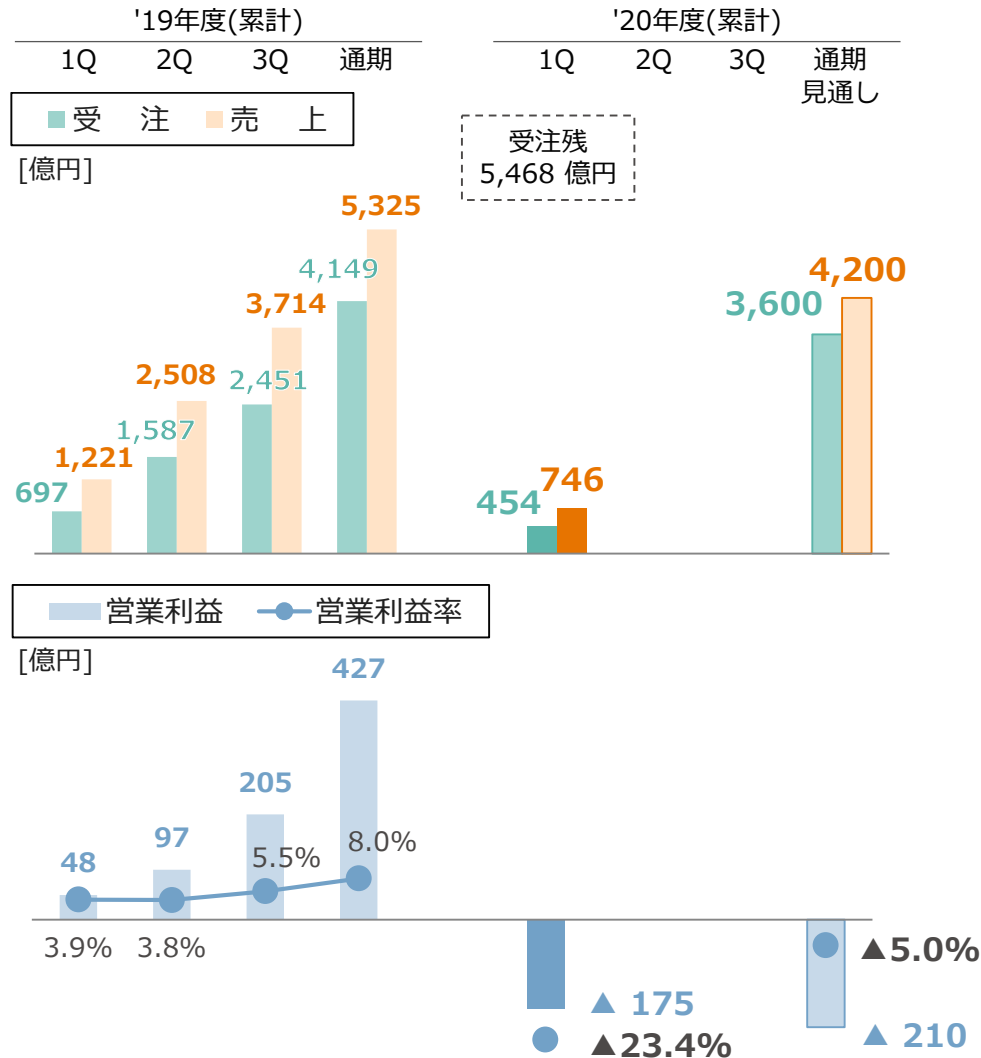
前年同期比損益計算書の概要

[単位：億円]

	前年同期比	(2019年度1Q	⇒	2020年度1Q)
営業損益	▲ 217	(10	⇒	▲ 206)
・ 売上高	▲ 501	(3,507	⇒	3,006)
・ 売上原価	▲ 230	(3,014	⇒	2,783)
・ 販売費および一般管理費	▲ 53	(482	⇒	429)
うち給料および手当	+ 1	(133	⇒	134)
うち研究開発費	▲ 29	(111	⇒	81)
営業外損益	+ 72	(▲ 54	⇒	17)
・ 金融収支(受取配当金を含む)	▲ 2	(▲ 5	⇒	▲ 7)
・ 持分法による投資損益	▲ 3	(3	⇒	▲ 0)
・ 為替差損益	+ 74	(▲ 50	⇒	23)
・ その他	+ 3	(▲ 2	⇒	1)
特別損益	+ 48	(-	⇒	48)
・ 固定資産売却益	+ 32	(-	⇒	32)
・ 関係会社株式売却益	+ 15	(-	⇒	15)

航空宇宙システム

主要製品：防衛航空機、民間航空機分担製造品、民間向けヘリコプター、誘導機器・宇宙関連機器、航空機用エンジン、航空機用ギアボックス



2020年度第1四半期実績 (前年同期比)

- 受注：民間航空機向け分担製造品や民間航空エンジン分担製造品が減少したことにより減少
- 売上：防衛省向けや民間航空機向け分担製造品、民間航空エンジン分担製造品が減少したことにより減収
- 営業利益：減収等により悪化

2020年度見通し (前期比)

- 受注：新型コロナウイルス感染拡大の影響による民間航空機向け分担製造品や民間航空エンジン分担製造品の減少により減少
- 売上：同上
- 営業利益：減収等により悪化

民間航空機向け分担製造品の売上機数

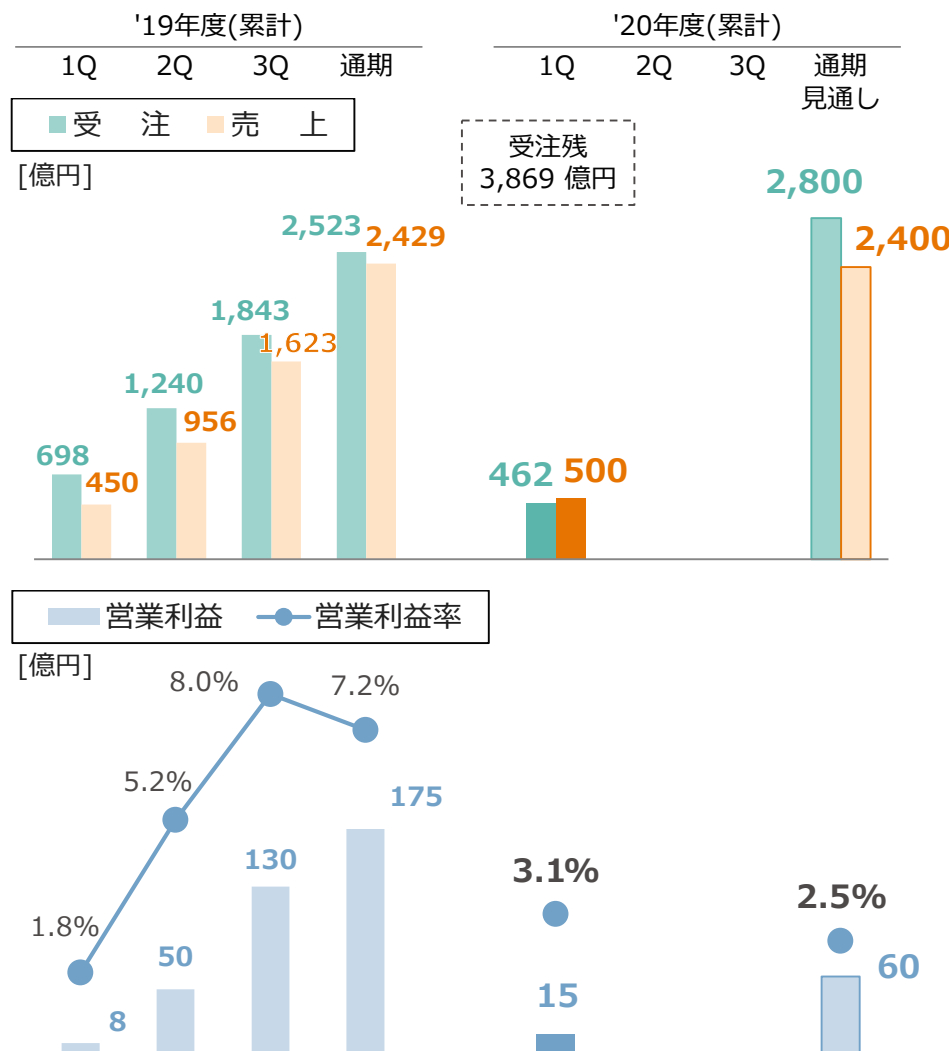
[単位:機]

	2019年度1Q	2020年度1Q
Boeing 767	8	4
Boeing 777	12	3
Boeing 777X	4	1
Boeing 787	43	18

	2018年度 実績	2019年度 実績
税前ROIC	5.0%	8.0%

エネルギー・環境プラント

主要製品：産業用ガスタービン・コージェネレーション、ガスエンジン、ディーゼル機関、陸用・船用タービン、空力・水力機械、産業プラント(セメント、肥料等)、発電プラント、LNGタンク、ごみ焼却プラント、トンネル掘削機、破碎機



2020年度第1四半期実績 (前年同期比)

- 受注：国内向けごみ処理施設の大規模改修工事等の受注があった前年同期に比べ減少
- 売上：国内向けごみ処理施設などの官公庁向け案件の増加等により増収
- 営業利益：新型コロナウイルス感染拡大の影響による操業差損の発生はあったものの、増収等により増益

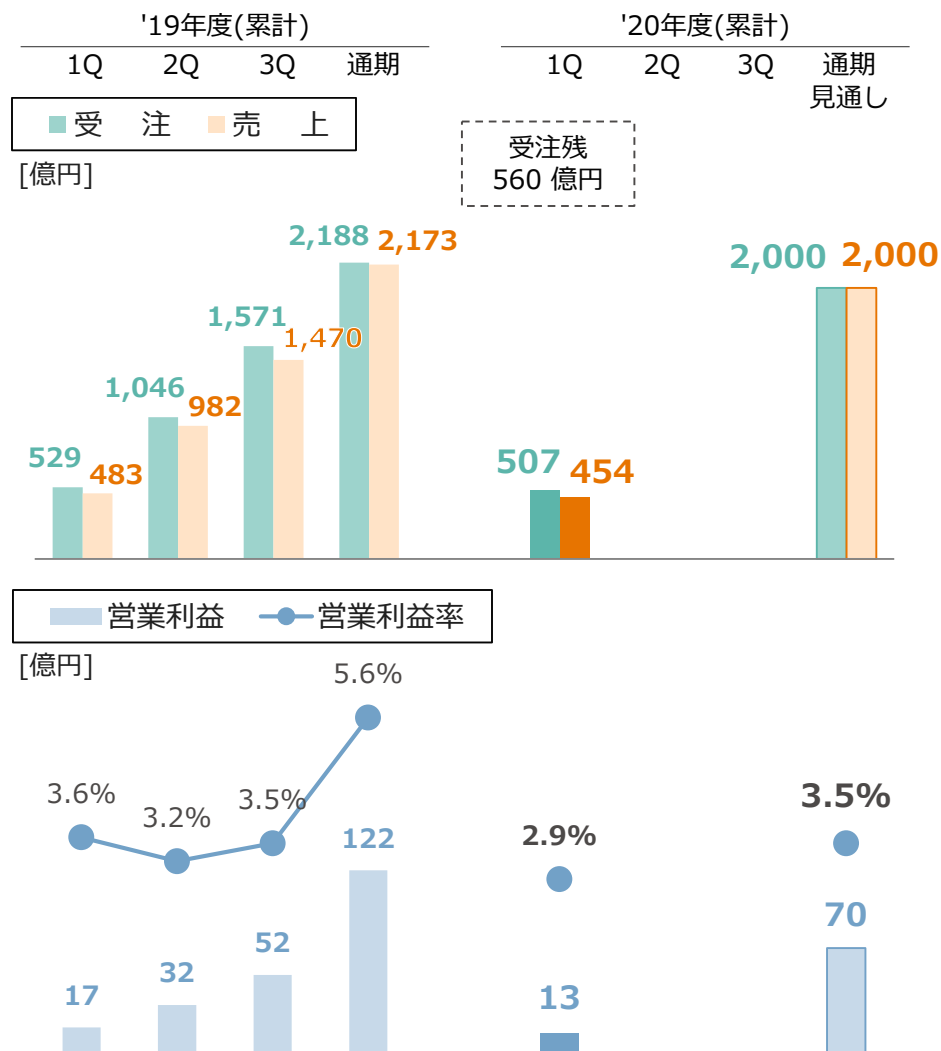
2020年度見通し (前期比)

- 受注：各種エネルギー関連機器や国内向けコンバインドサイクル発電プラントの増加等により増加
- 売上：新型コロナウイルス感染拡大の影響によるサービス売上の減少はあるものの前期並み
- 営業利益：好採算案件の減少や、新型コロナウイルス感染拡大の影響によるサービス売上の減少および操業差損の発生等により減益

	2018年度 実績	2019年度 実績
税前ROIC	9.3%	10.4%

精密機械・ロボット

主要製品：建設機械用油圧機器、産業機械用油圧機器・装置、船用舵取機、船用各種甲板機械、産業用ロボット、医薬・医療ロボット



2020年度第1四半期実績 (前年同期比)

- 受注：半導体向けロボットの増加はあったものの、建設機械市場向け油圧機器の減少により減少
- 売上：同上
- 営業利益：減収により減益

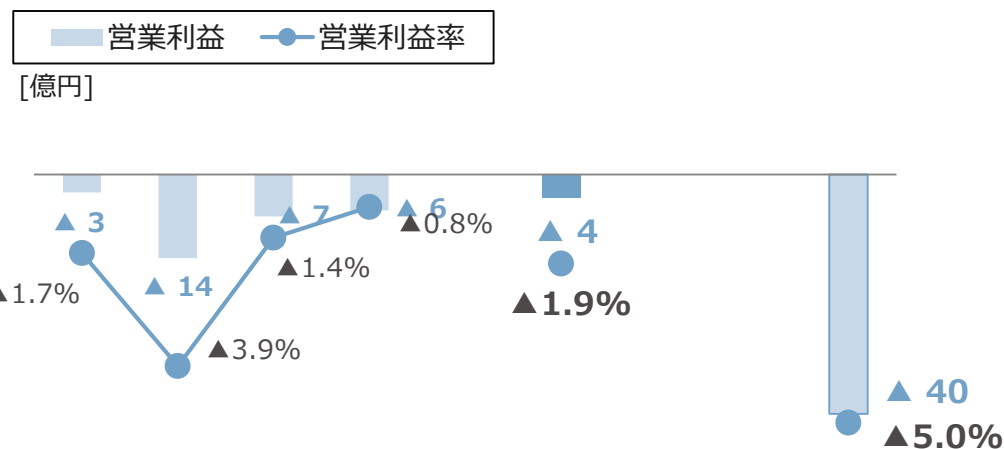
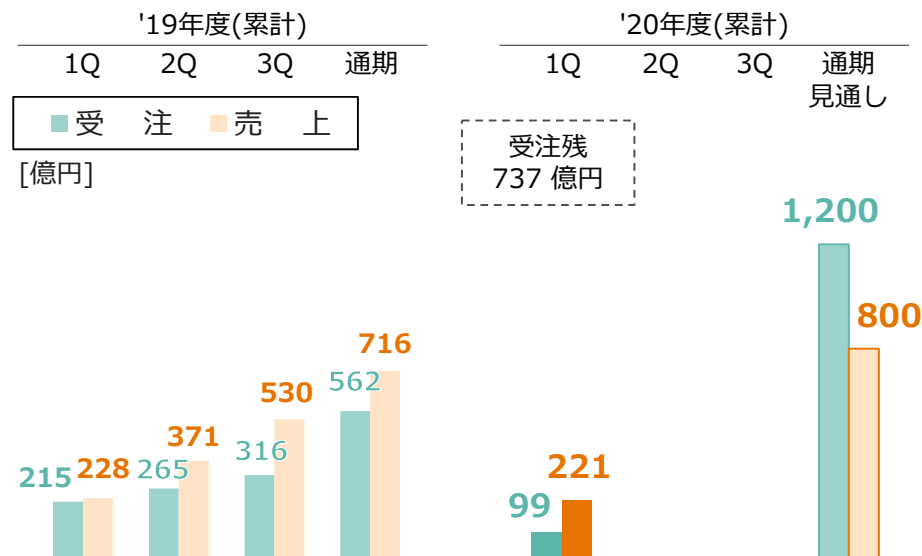
2020年度見通し (前期比)

- 受注：半導体向けロボットの増加はあるものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響による建設機械市場向け油圧機器の減少や汎用ロボットの減少等により減少
- 売上：同上
- 営業利益：減収により減益

	2018年度実績	2019年度実績
税前ROIC	19.8%	8.8%

船舶海洋

主要製品：LNG船、LPG船、ばら積み運搬船、潜水艦、ジェットフォイル



2020年度第1四半期実績 (前年同期比)

- 受注：LPG運搬船を受注した前年同期に比べ減少
- 売上：LPG運搬船や潜水艦の工事量増加はあったものの、修繕船の売上減少等により減収
- 営業利益：前年同期並み

2020年度見通し (前期比)

- 受注：LNG運搬船、LPG運搬船および潜水艦の受注を見込み増加
- 売上：新型潜水艦および修繕船の工事量増等により増収
- 営業利益：新造商船の工事量減少による操業差損の発生等により悪化

新造船の受注・売上・受注残隻数

[単位:隻]

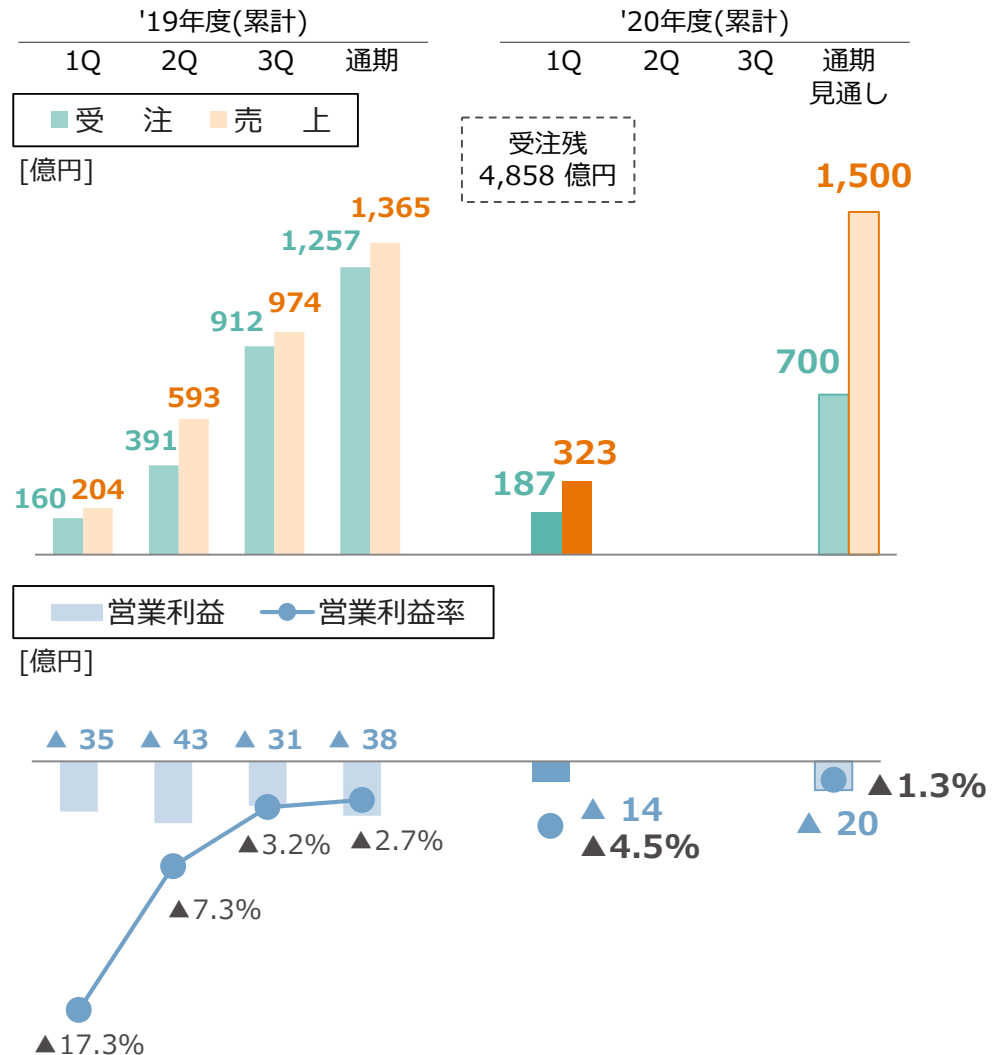
	受注		売上 [※]		受注残
	'19年度1Q	'20年度1Q	'19年度1Q	'20年度1Q	'20年度1Q
LNG船			2		
LPG船	2		4	3	5
潜水艦			2	2	2
その他			4	3	1
合計	2	0	12	8	8

※売上は進行基準を含む

	2018年度実績	2019年度実績
税前ROIC	3.2%	1.4%

車 両

主要製品：各種電車（新幹線含む）、機関車、客車、台車



2020年度第1四半期実績（前年同期比）

- 受注：新幹線車両の受注があったこと等により増加
- 売上：国内向け車両が増加したこと等により増収
- 営業利益：新型コロナウイルス感染拡大の影響による海外案件の採算悪化はあったものの、増収に加え、期間費用の減少等により改善

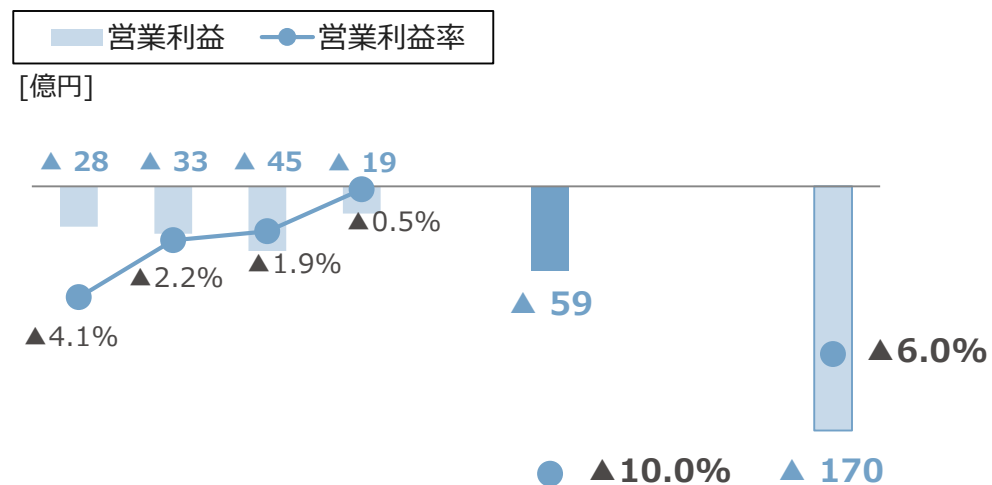
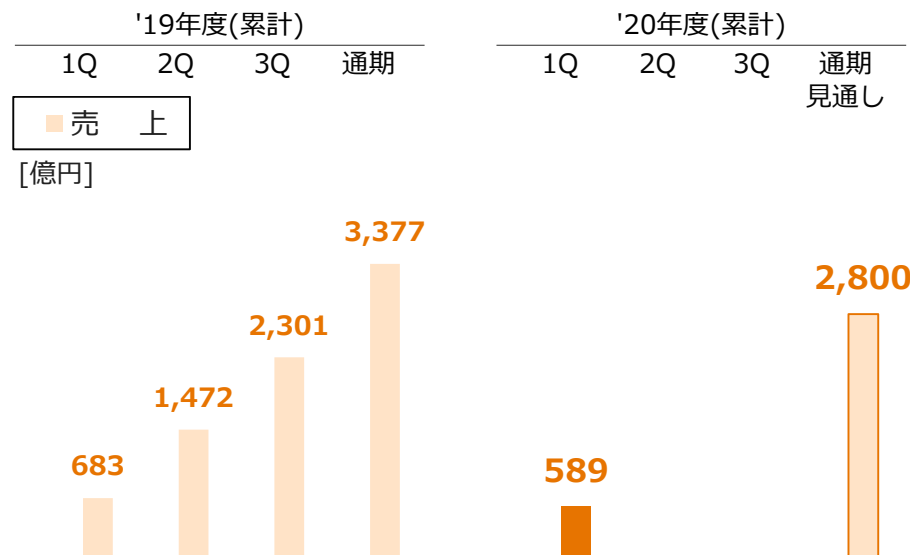
2020年度見通し（前期比）

- 受注：新型コロナウイルス感染拡大の影響による受注両数減および契約の遅れにより減少
- 売上：米国向け車両の増加等により増収
- 営業利益：新型コロナウイルス感染拡大の影響による米国拠点における生産の一時中断に伴う納入遅れや顧客の車両受け取りの一時中断はあったものの、国内向け車両の採算性向上や前期に発生した米国向け案件での一時的費用の減少等により改善

	2018年度 実績	2019年度 実績
税前ROIC	▲26.4%	▲7.2%

モーターサイクル&エンジン

主要製品：二輪車、多用途四輪車、四輪バギー車（ATV）、PWC、汎用エンジン



2020年度第1四半期実績（前年同期比）

- 売上：新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け新興国向けや欧州向け二輪車、米国向け汎用エンジンが大きく減少したこと等により減収
- 営業利益：減収に加え、対米ドルや対ユーロ、対新興国通貨等で前年同期に比べ為替レートが円高で推移したこと等により悪化

2020年度見通し（前期比）

- 売上：新型コロナウイルス感染拡大の影響による新興国向けおよび欧州向け二輪車の減少や、米国向け汎用エンジンの減少により減収
- 営業利益：減収等により悪化

製品別売上（卸売）台数・金額

[単位:千台、億円]

	2019年度1Q		2020年度1Q	
	台数	金額	台数	金額
先進国二輪車	30	262	29	247
新興国二輪車	69	164	25	91
四輪車・PWC	11	133	13	166
汎用エンジン		124		85
合計	110	683	67	589

	2018年度実績	2019年度実績
税前ROIC	8.4%	▲2.6%

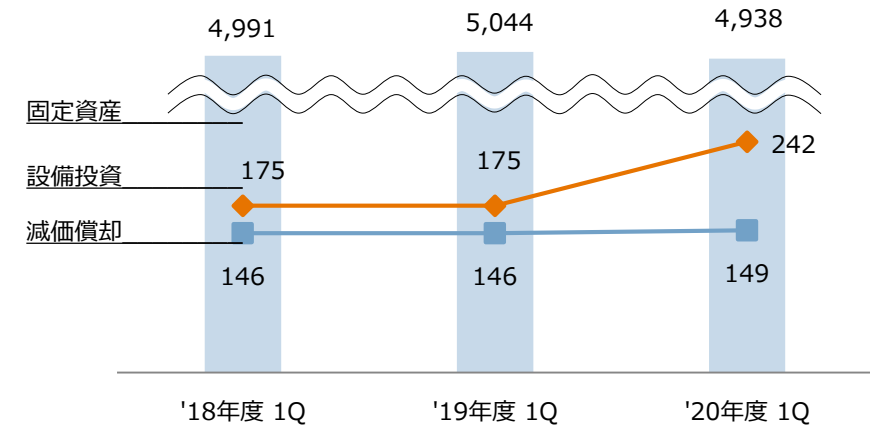
貸借対照表の概要

[単位：億円]

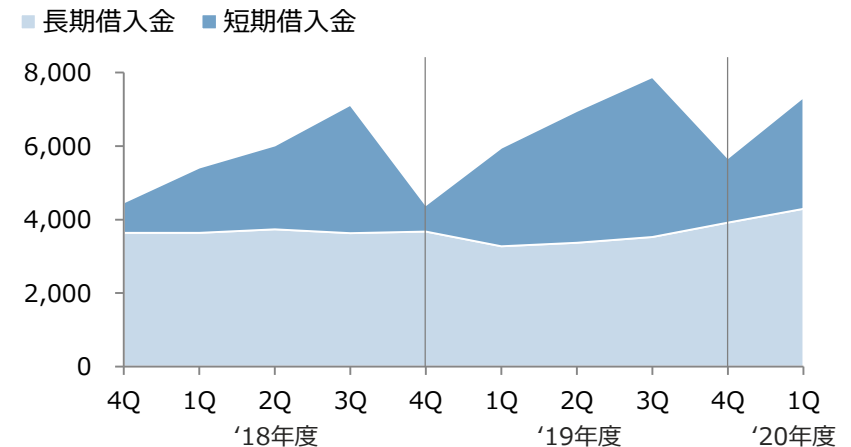
	2019年度末	2020年度1Q末	増減
現預金	1,061	1,716	+ 655
売掛債権	4,732	4,301	▲ 430
棚卸資産	6,316	6,583	+ 267
有形・無形固定資産	5,039	4,938	▲ 100
その他資産	2,429	2,591	+ 162
資産合計	19,578	20,132	+ 554
買掛債務	3,716	3,073	▲ 643
借入債務	5,674	7,327	+ 1,652
前受金	1,486	1,433	▲ 52
その他負債	3,985	3,722	▲ 262
負債合計	14,862	15,557	+ 694
株主資本	4,855	4,737	▲ 117
その他純資産	▲ 139	▲ 161	▲ 22
純資産合計	4,715	4,575	▲ 140
負債・純資産合計	19,578	20,132	+ 554
自己資本比率	23.2%	21.9%	
Net D/E レシオ	101.2%	126.8%	

- 総資産は、不測の事態に備えた手元資金の確保による現預金の増加や航空宇宙システムの運転資本の増加等により増加
- 負債は、借入債務が増加したこと等により全体として増加
- 純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失等により減少

設備投資等の推移 (単位：億円)



有利子負債の推移 (単位：億円)



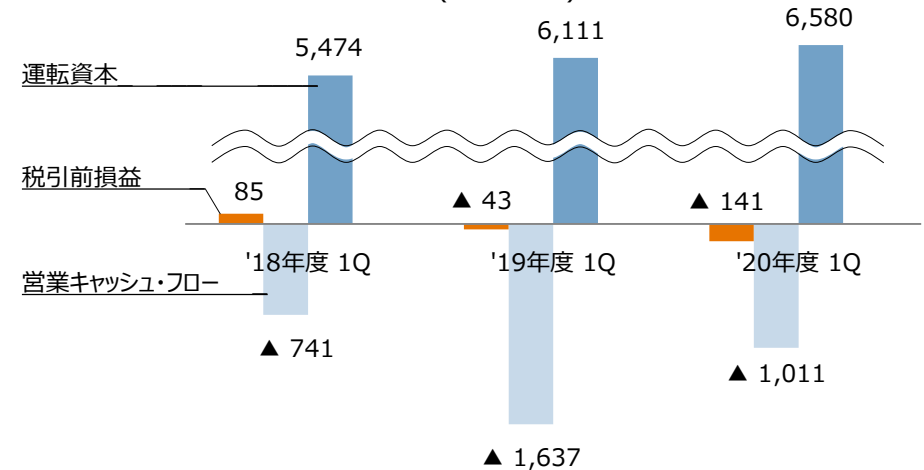
キャッシュ・フローの概要

[単位: 億円]

	2019年度 1Q	2020年度 1Q	増減
営業キャッシュ・フロー	▲ 1,637	▲ 1,011	+ 626
投資キャッシュ・フロー	▲ 171	26	+ 197
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 1,808	▲ 984	+ 823
財務キャッシュ・フロー	1,505	1,638	+ 132

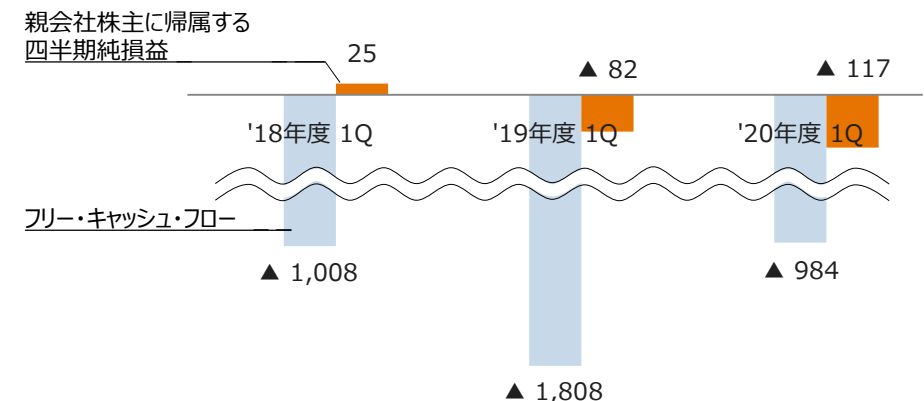
- 営業キャッシュ・フローは、航空宇宙システムにおける売掛債権入金時期の差異やモーターサイクル&エンジンにおける運転資本の減少等により改善
- 投資キャッシュ・フローは、固定資産売却や関係会社株式売却による収入等により改善
- この結果、フリー・キャッシュ・フローは前年同期比で改善

営業キャッシュ・フロー等の推移 (単位: 億円)



フリー・キャッシュ・フローと

親会社株主に帰属する四半期純損益の推移 (単位: 億円)



連結受注高・売上高・利益見通し

[単位：億円]

	2019年度 実績	2020年度 見通し	増減
受注高	15,135	14,000	▲ 1,135
売上高	16,413	14,600	▲ 1,813
営業損益	620	▲ 300	▲ 920
経常利益	404	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	186	—	—
税前ROIC	4.2%	—	—
ROE	4.0%	—	—
配当（1株当たり）	35円	—	—

<実績/前提レート ※ >

ドル（¥/\$）	108.94	106.00
ユーロ（¥/EUR）	121.70	119.00

※ 前提レートは見通し公表時の為替エクスポージャーに対して適用

前期比

• 受注

- 船舶海洋やエネルギー・環境プラントの増加はあるものの、車両や航空宇宙システムの減少等により全体では減少の見込み

• 売上

- 車両や船舶海洋の増加はあるものの、航空宇宙システムやモーターサイクル&エンジンの減収等により全体では減収の見込み

• 利益

- 営業利益は、車両の改善はあるものの、航空宇宙システムやモーターサイクル&エンジンの減益等により全体では減益の見込み
- 経常利益および親会社株式に帰属する当期純利益予想は、ポストコロナを見据えて、今後発生しうる追加的な費用を精査中のため引き続き未定とし、今後、合理的な予想が可能となった時点で改めて開示
- 配当に関しては、かかる経営状況に鑑み、中間配当を見送り、期末配当予想については無配となる可能性が高いものの引き続き未定とする

(参考)為替影響額1円の変動による影響額

[単位：億円]

	営業利益	経常利益
ドル	17.3	16.6
ユーロ	1.5	1.9

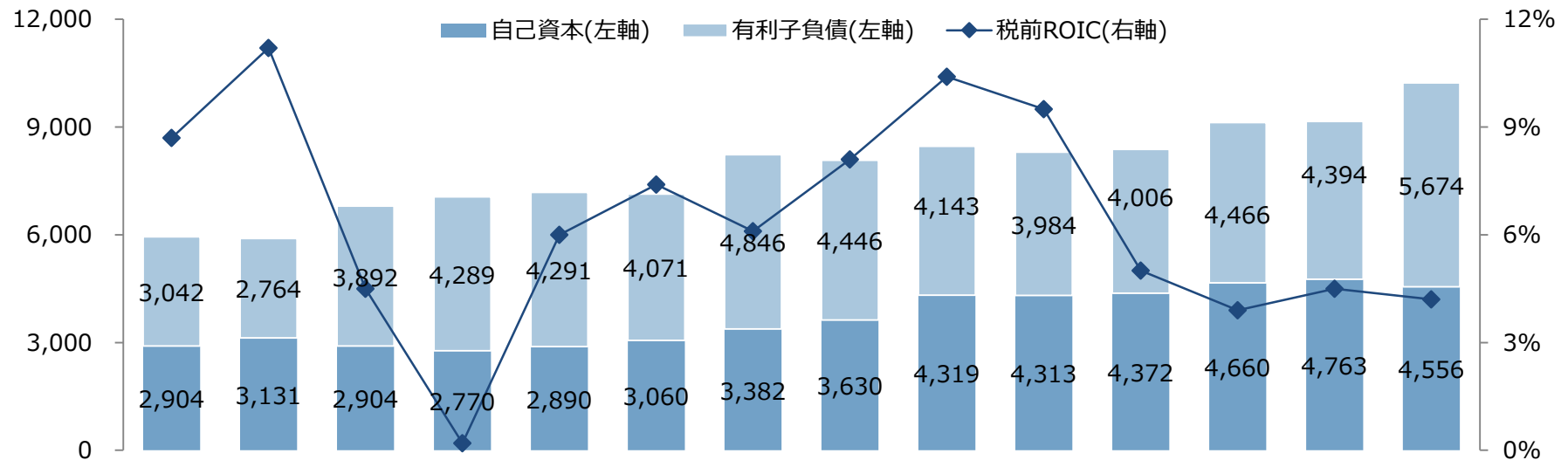
セグメント別通期業績見通し

[単位:億円]

	受注高			売上高			営業利益		
	2019年度 実績	2020年度 見通し	増減	2019年度 実績	2020年度 見通し	増減	2019年度 実績	2020年度 見通し	増減
航空宇宙システム	4,149	3,600	▲ 549	5,325	4,200	▲ 1,125	427	▲ 210	▲ 637
ICT・環境プラント	2,523	2,800	+ 277	2,429	2,400	▲ 29	175	60	▲ 115
精密機械・ホット	2,188	2,000	▲ 188	2,173	2,000	▲ 173	122	70	▲ 52
船舶海洋	562	1,200	+ 638	716	800	+ 84	▲ 6	▲ 40	▲ 34
車両	1,257	700	▲ 557	1,365	1,500	+ 135	▲ 38	▲ 20	+ 18
モーターサイクル&エンジン	3,377	2,800	▲ 577	3,377	2,800	▲ 577	▲ 19	▲ 170	▲ 151
その他	1,075	900	▲ 175	1,024	900	▲ 124	12	50	+ 38
調整額※	-	-	-	-	-	-	▲ 53	▲ 40	+ 13
合計	15,135	14,000	▲ 1,135	16,413	14,600	▲ 1,813	620	▲ 300	▲ 920

※「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含みます

ヒストリカルデータ



[単位: 億円]	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
税前ROIC	8.7%	11.2%	4.5%	0.2%	6.0%	7.4%	6.1%	8.1%	10.4%	9.4%	5.0%	3.9%	4.5%	4.2%
投下資本	5,946	5,896	6,797	7,059	7,182	7,132	8,228	8,076	8,463	8,297	8,379	9,127	9,158	10,230
売上高	14,386	15,010	13,385	11,734	12,269	13,037	12,888	13,854	14,861	15,410	15,188	15,742	15,947	16,413
営業利益	691	769	287	▲ 13	426	574	420	723	872	959	459	559	640	620
経常利益	490	639	387	142	491	636	393	606	842	932	366	432	378	404
親会社株主に帰属する 当期純利益※	297	351	117	▲ 108	259	233	308	386	516	460	262	289	274	186

※2014年度までは「当期純利益」

為替レート ¥/\$	117	115	101	93	86	79	82	99	109	118	108	110	110	108

市場概況（1/2）

航空宇宙システム

- 防衛省向けについては、厳しい防衛予算の中で一定程度の需要が存在
- 民間航空機については、新型コロナウイルス感染拡大により世界の旅客需要が低迷しており、機体・エンジンともに需要が低下

エネルギー・環境プラント

- 国内ではごみ焼却プラント等において老朽化設備の更新需要が継続
- 中長期的には、国内外の分散型電源需要および新興国におけるエネルギーインフラ整備需要は根強い
- 一方、新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の停滞や資源価格の不安定化により、顧客の短期的な設備投資判断が見直されるなど不透明な状況が継続

精密機械・ロボット

- 建設機械市場向け
 - 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、全世界的に需要が大きく低迷
 - 新型コロナウイルス感染拡大による影響が不透明な状況にあるものの、中国市場はいち早く回復に向かう
- ロボット市場向け
 - 汎用ロボットは、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受け案件の期ずれがあるものの、回復が早かった中国市場で好調に推移
 - 半導体向けロボットについては、顧客サプライヤーの納入遅延が懸念されるものの、大手半導体メーカーの投資再開により、中長期的には需要は着実に拡大していくと推測

市場概況 (2/2)

船舶海洋

- 環境規制強化に伴うガス燃料推進船需要の顕在化やLNG開発プロジェクトの具体化が進む
- 一方で、海運マーケットの長期低迷、新型コロナウイルス感染拡大による商談の停滞等により、依然として厳しい状況

モーターサイクル&エンジン

- 主要市場である欧米や東南アジアで新型コロナウイルスの感染が拡大し、市場が大きな影響を受けている

車両

- 中長期的には、国内では、老朽化車両の更新需要が持続的に見込まれる
- 米国では、注力市場であるニューヨーク地区をはじめ、輸送力増強・更新需要が見込まれる
- アジアでは、日本政府によるインフラ輸出促進に伴って新興国向け都市交通建設案件が計画されている
- 一方で、新型コロナウイルス感染拡大の影響による鉄道事業者の大幅な収入減、海外での新線建設工事の遅延により、今後は国内外の車両調達計画の見直し、納期の見直しが見込まれる

世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する “Global Kawasaki”

ご注意

本資料のうち、業務見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願い致します。実際の業績は、外部環境および内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、税制や諸制度などがあります。